

# レンゲ稲作における中干しの効果

福島県農業総合センター 浜地域研究所  
平成19年度農業総合センター試験成績概要

## 1 部門名

水稲 - 水稲 - 生育調節、水管理  
分類コード 01-01-16140000

## 2 担当者

佐々木園子

## 3 要旨

「レンゲ稲作」では、すき込み時期のレンゲの生育量が適正であることが望ましいが、実際には過剰な生育の場合がある。そのまますき込みを行うとレンゲからの窒素供給が過多となり、過繁茂、登熟歩合の低下、倒伏を招き、収量・品質が低下する。そこでレンゲを過剰にすき込んだ時の水稲の生育制御技術として、中干しの効果について検討した。

- (1) 中干し期間について、長期区は27日間、標準区は14日間、短期区は7日間として検討した。水稲品種はひとめぼれを用い、レンゲは地上部乾物重約400g/m<sup>2</sup>をすき込んだ(標準量は200g/m<sup>2</sup>)。
- (2) レンゲ過剰すき込みほ場での水稲生育は、中干し期間が短いほど旺盛であった。
- (3) レンゲ過剰すき込みほ場では、中干し期間が7日間程度では、穂数やm<sup>2</sup>初数が多くなり、早期に倒伏し、登熟歩合、収量が低下した。また玄米タンパク含量や未熟粒の割合が高くなった。
- (4) 以上より、レンゲを過剰にすき込んだ時には、収量、品質の低下を軽減するため、中干し期間を14日以上とる必要がある。
- (5) 留意点としては、すき込み時期にレンゲ生育量が過剰で、持ち出し等の調節ができなかった場合に適用する。また、中干しは目標茎数が確保されたら直ちに行う。中干し期間中に低温が予想される場合には中干しを中断し、深水管理を行うことが必要である。

## 4 その他の資料等

なし